

厚生科学研究研究費補助金

新興・再興感染症研究事業

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究

平成13年度 総括研究報告書

主任研究者 小竹 久平

平成13（2001）年 3月

# 目 次

## I. 総括研究報告

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究 ----- 1

小竹久平

(資料) ①平成13年度新規採択課題 (肝炎関係以外)

②平成13年度新興・再興感染症研究事業における課題採択方針 (肝炎関係)

③平成13年度新規採択課題 (肝炎関係)

④平成13年度終了課題

⑤平成14年度新興・再興感染症研究事業における課題採択方針

⑥平成14年度厚生労働科学研究費補助金 (新興・再興感染症研究事業)  
継続研究計画課題一覧

## II. 分担研究報告

1. 新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究 ----- 11

吉倉廣、猿田克年

厚生科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）

総括研究報告書

新興・再興感染症研究事業の企画と評価に関する研究

主任研究者 小竹久平 国立感染症研究所 企画調整主幹

研究要旨

新興・再興感染症研究の専門家からなる委員会を設け、新興・再興感染症研究事業の適性かつ円滑な実施を図った。

分担研究者

吉倉廣  
（国立感染症研究所長）

猿田克年  
（国立感染症研究所・国際  
協力室長）

A. 研究目的

諸外国の新興・再興感染症研究に劣らぬ研究を実施するためには、適切な課題の設定、最適な研究者の選考、公正な研究費の配分、そして厳密な研究成果の評価が必要不可欠であり、感染症研究の専門家からなる委員会でこれらを行う。

B. 研究方法

新興・再興感染症研究の専門家である委員会（以下「専門委員会」という。）を組織し、1）研究者の選考及び研究費の配分額の決定、2）研究課題の設定、及び3）研究成果の評価を行った。

C. 研究結果

- 1）平成13年度新規研究課題（肝炎関係を除く）の評価を行った。
- 2）平成13年度新規研究課題（肝炎関係）の評価を行った。
- 3）平成13年度終了課題6件の評価を行った。
- 4）平成14年度新興・再興感染症研究事業における課題採択方針を策定した。
- 5）平成13年度の継続研究課題38件の中間評価を行った。
- 6）平成14年度新規研究課題の評価を行った。

## 平成 13 年度新規採択課題（肝炎関係以外）

主任 研究者	所属施設	職名	研究課題	交付決定額 (千円)
牧野正彦	国立感染症 研究所・ハン セン病研究 センター・病 原微生物部	部長	ツベルクリン検査、BCG 等に代わ る結核等の抗酸菌に係る新世代の 診断技術及び予防技術の開発に関 する研究	40,000
高島郁夫	北海道大学 大学院獣医 学研究科	教授	野生げっ歯類及びダニ類に由来す る感染症の予防、診断及び疫学に関 する研究	24,000
清野宏	大阪大学微 生物病研究 所免疫・生体 防御部門免 疫化学分野	教授	粘膜ワクチン開発の基礎となるア ジュバントに関する研究	40,000
山田章雄	国立感染症 研究所獣医 科学部	部長	動物由来感染症対策としての新し いサーベイランスシステムの開発 に関する研究	20,000
高山直秀	東京都立駒 込病院・小児 科	小児 科医 長	成人麻疹の実態把握と今後の麻疹 対策の方向性に関する研究	24,000

## 平成 13 年度新興・再興感染症研究事業における 課題採択方針（肝炎関係）

### <公募研究課題（公募課題番号）>

- ① C 型肝炎ウイルスの感染による肝炎、肝硬変及び肝がん発生等の病態の解明に関する研究（13100701）
- ② C 型肝炎の自然経過及び介入による影響等の評価を含む疫学的研究（13100801）
- ③ C 型肝炎ウイルスの感染者に対する治療の標準化に関する臨床的研究（13100901）

## 平成 13 年度新規採択課題（肝炎関係）

主任 研究者	所属施設	職名	研究課題	交付決定額 (千円)
林 紀夫	大阪大学大 学院	教授	C型肝炎ウイルスの感染による肝 炎・肝硬変及び肝がん発生等の病態 の解明に関する研究	50,000
吉澤 浩司	広島大学医 学部衛生学	教授	C型肝炎の自然経過および介入に よる影響等の評価を含む疫学的研 究	40,000
飯野 四郎	聖マリアン ナ医科大学	教授	C型肝炎ウイルスの感染者に対す る治療の標準化に関する臨床的研 究	40,000

## 平成 13 年度終了課題

主任研究者	所属施設	職名	研究課題
林 英生	筑波大学基礎 医学系微生物 学	教授	サルモネラの診断・予防法の開 発
岡田 全司	国立療養所近 畿中央病院臨 床研究部	部長	抗結核キラーTリンパ球とリコ ンビナント BCG- $\cdot$ DNA-ワクチ ンの開発による新しい予防・診 断・治療法
相川 正道	東海大学総合 科学技術研究 所	教授	抗マラリヤ薬の複合投与によ る相乗効果に関する基礎的研 究
北 潔	東京大学大学 院医学系研究 科	教授	新規抗トリパノソーマ薬アス コフラノンの実用化
竹内 勤	慶應義塾大学 医学部熱帯医 学・寄生虫学 教室	教授	我が国におけるアメーバ症の 実態の解明と対策確立に関す る研究
牧野 壮一	帯広畜産大学 畜産学部獣医 学科家畜微生 物学教室	助教授	炭疽の発症機構の解明と迅速 検出法の確立

## 平成 14 年度新興・再興感染症研究事業における 課題採択方針

### ＜公募研究課題（公募課題番号）＞

- ① 結核菌症の病態解明に基づく新たな治療法等の開発に関する研究  
(14090101)
- ② 赤痢アメーバ症等寄生虫症ハイリスク群に対する予防法等の開発に関する研究 (14090201)
- ③ ビブリオ・バルニフィカス等による重篤な経口感染症に関する研究  
(14090301)
- ④ 生物テロに使用される可能性の高い病原体による感染症のまん延防止、  
予防、診断、治療に関する研究 (14090401)
- ⑤ 国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤  
整備に関する研究 (14090501)
- ⑥ 大規模感染症発生時における行政機関、医療機関等との広域連携に関  
する研究 (14090601)
- ⑦ 都市部における一般対策の及ぶにくい特定集団に対する効果的な感染症  
対策に関する研究 (14090701)
- ⑧ 経口細菌感染症の広域的・散発的発生時の実地疫学的・細菌学的調査手  
法等の開発に関する研究 (14090801)
- ⑨ インフルエンザ予防接種の E B M に基づく政策評価に関する研究  
(14090901)
- ⑩ その他新興感染症及び再興感染症に係る疫学的研究並びに予防、診断及  
び治療に関する研究であって、重要性及び緊急性が特に高いもの  
(14091001)

## 平成14年度厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）

## 継続研究計画課題一覧

No	修 開 始	主任研究者	所属施設	職名	研究課題名	平成3年度	平成14年度	備考
						当初 交付決定額	継続 交付申請額	
1	13 15	マキノ 牧野 正彦 マサヒコ	国立感染症研究所ハ ンセン病研究センタ ー・病原微生物部	部長	ツベルクリン検査、BCG等に代わる結核 等の抗酸菌に係る新世代の診断技術及 び予防技術の開発に関する研究	40,000	40,000	
2	13 15	タカシマ 高島 郁夫 イク	北海道大学大学院獣 医学研究科	教授	野生げっ歯類及びダニ類に由来する感 染症の予防、診断及び疫学に関する研 究	24,000	24,000	
3	13 15	キヨノ 清野 宏 ヒロシ	大阪大学微生物病研 究所免疫・生体防御部 門免疫化学分野	教授	粘膜ワクチン開発の基礎となるアジュ バントに関する研究	40,000	50,000	
4	13 15	ヤマダ 山田 章雄 アキオ	国立感染症研究所獣 医学部	部長	動物由来感染症対策としての新しいサ ーベイランスシステムの開発に関する 研究	20,000	25,000	
5	13 15	ハヤシ 林 紀夫 ノリオ	大阪大学大学院医学 系研究科分子制御台 療学	教授	C型肝炎ウイルスの感染による肝炎・肝 硬変及び肝がん発生等の病態の解明に 関する研究	50,000	50,000	肝炎等研究 分野に振替
6	13 15	ヨシタリ 吉澤 浩司 ヒロシ	広島大学医学部衛生 学教室	教授	C型肝炎の自然経過および介入による 影響等の評価を含む疫学的研究	40,000	50,000	肝炎等研究 分野に振替
7	13 15	イイノ 飯野 四郎 シロウ	聖マリアンナ医科大 学内科学(消化器臓 内科)	教授	C型肝炎ウイルスの感染者に対する治 療の標準化に関する臨床的研究	40,000	40,000	肝炎等研究 分野に振替
8	13 15	タカヤマ 高山 直秀 ナオヒデ	東京都立駒込病院・小 児科	小児科 医長	成人麻疹の実態把握と今後の麻疹対策 の方向性に関する研究	24,000	27,000	

以上1年目研究班

(単位：千円)

9	12	14	渡辺 治雄 ハカリノ ハカリノ ハカリノ	国立感染症研究所 細菌部	部長	パルスフィールド電気泳動法 (Pulsed Field Gel Electrophoresis, PFGE) の標準化及び画像診断を基盤とした分散型システムの有効性に関する研究	26,000	30,000	
10	12	14	岡部 信彦 オカベ ノブヒコ	国立感染症研究所 感染症情報センター	センター長	効果的な感染症発生動向調査のための国及び県の発生動向調査の方法論の開発に関する研究	30,000	30,000	
11	12	14	鈴木 重任 スズキ シゲトシ	社会福祉法人黎明会 南台病院	医師	国及び県の発生動向調査の連携及び海外の調査定点設定に関する研究	13,000	13,000	
12	12	14	倉田 毅 クラダ キ	国立感染症研究所	副所長	感染症診断・検査手法の精度管理並びに標準化及びその普及に関する研究	30,000	30,000	
13	12	14	小室 勝利 コムロ カツトシ	国立感染症研究所 安全性研究部	部長	未知の感染症のリスク評価に関する研究	10,000	10,000	
14	12	14	宮城島 一明 ミヤジマ カズキ	京都大学大学院医学 研究科社会健康医学 専攻健康政策管理学	助教授	感染症及び感染症対策の国際的動向に関する研究	9,000	26,000	
15	12	14	森 亨 モリ トシ	(財)結核予防会結核 研究所	所長	再興感染症としての結核対策確立のための研究	45,000	45,000	
16	12	14	森島 恒雄 モリシマ コノエ	名古屋大学医学部保 健学科	教授	インフルエンザの臨床経過中に発生する脳炎・脳症の疫学及び病態に関する研究	30,000	30,000	
17	12	14	神谷 齊 カミヤ ヒロシ	国立療養所三重病院	院長	乳幼児に対するインフルエンザワクチンの効果に関する研究	30,000	30,000	
18	12	14	田代 真人 タノ マサト	国立感染症研究所 基礎部	部長	新型インフルエンザ対策に関する総合研究	27,000	30,000	
19	12	14	熊本 悦明 クマモト ヨシアキ	札幌医科大学医学部 泌尿器科教室	名誉教授	性感染症の効果的な発生動向調査に関する研究	18,000	29,000	

20	12	14	品川 森一 シカワ モリカス 森一	常広畜産大学畜産学 部腫瘍学・遺伝学・公衆 衛生学教室	教授	プリオン病の診断技術の開発に関する 研究	25,000	25,000	肝炎等研究 分野に振替
21	12	14	神谷 正男 カミヤ マサオ 正男	北海道大学大学院獣 医学研究科寄生虫学 教室	教授	エキノコックス症の監視・防御に関す る研究	26,000	30,000	
22	12	14	鈴木 守 スズキ マモル 守	群馬大学医学部	教授	マリアアの病態疫学・流行予測及び感 染動向に関する研究	16,000	30,000	
23	12	14	太田 伸生 オウタ ノブオ 伸生	名古屋市立大学医学 部医動物学	教授	日本住血吸虫等世界の寄生虫疾患の疫 学及び予防に関する研究	18,000	30,000	
24	12	14	池 康嘉 イケ ヤスヨシ 康嘉	群馬大学医学部微生物 学講座	教授、 薬耐性 菌感染 施設 課長	新型の薬剤耐性菌のレファレンス並び に耐性機構の解析及び迅速・簡便検出 用に関する研究	24,000	24,000	
25	12	14	荒川 宜親 アラカワ ヨシチカ 宜親	国立感染症研究所細 菌・血液細菌部	部長	薬剤耐性菌の発生動向のネットワーク に関する研究	24,000	30,000	
26	12	14	倉辻 忠俊 クラツジ タダトシ 忠俊	国立国際医療センタ 一研究所	部長	院内感染の発症リスクの評価及び効果 的な対策システムの開発等に関する研 究	21,000	22,000	
27	12	14	吉川 泰弘 ヨシカワ タイロウ 泰弘	東京大学大学院農学 生命科学研究所	教授	輸入動物が媒介する動物由来感染症の 実態把握及び防御対策に関する研究	24,000	30,000	
28	12	14	上原 至雅 カミハラ シノブ 至雅	国立感染症研究所生 物活性物質部	部長	輸入真菌症等真菌症の診断・治療法の 開発と発生動向調査に関する研究	21,000	30,000	
29	12	14	岩崎 琢也 イワサキ タクヤ 琢也	国立感染症研究所感 染病動物感染病理室	室長	重症エンテロウイルス脳炎の疫学的及 びウイルス学的研究並びに臨床的対策 に関する研究	24,000	24,000	
30	12	14	名取 泰博 ナトリ タシヒロ 泰博	国立国際医療センタ 一研究所臨床薬理研 究部	部長	新興する細菌性腸管感染症の診断・治 療法の開発と発生動向調査に関する研 究	24,000	24,000	

31	12	14	クダダ 武田 直和 ナオカス	国立感染症研究所ウ イルス第二部腸管感 染ウイルス第一室	室長	食品由来のウイルス性感染症の検出・ 予防に関する研究	21,000	21,000	
32	12	14	アサダ 浜田 茂幸 シゲユキ	大阪大学大学院歯学 研究科口腔分子感染 制御学講座(口腔細菌 学教室)	教授	劇症型レンサ球菌感染症の病態解明及 び治療法の確立に関する研究	18,000	18,000	
33	12	14	ヤマイ 山井 志朗 シロウ	神奈川県衛生研究所 細菌病理部	部長	髄膜炎菌性髄膜炎の発生动向調査及び 検出方法の研究	12,000	30,000	
34	12	14	マサカ 増澤 俊幸 トシユキ	静岡県立大学薬学部 微生物学教室	助教授	回帰熱、レプトスピラ等の希少輸入細 菌感染症の実態調査及び迅速診断法の 確立に関する研究	18,000	30,000	
35	12	14	マツノ 松岡 正典 マサノリ	国立感染症研究所 ハセベ病研究センタ 体防御部第1研究 室	室長	ハンセン病感染の実態把握及びその予 防(後遺症の予防を含む。)・診断・ 治療法に関する研究	40,000	45,000	
36	12	14	クニカネ 国包 章一 シヨウイチ	国立公衆衛生院水道 工学部	部長	クリプトスポリジウム及びびジアルジの 診断、治療及び疫学に関する研究	24,000	24,000	
37	12	14	クラネ 倉根 一郎 イチロウ	国立感染症研究所ウ イルス第一部	部長	節足動物媒介性ウイルスに対する診断 法の確立、疫学及びワクチン開発に関 する研究	19,000	30,000	
38	12	14	アライ 安野院 宣昭 ノリアキ	国立感染症研究所昆 虫医科学部	部長	疾病媒介昆虫の侵入・移動分散の監 視・防制に関する研究	19,000	21,000	

厚生科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）

分担研究報告書

新興・再興感染症研究事業の企画と評価に関する研究

分担研究者 吉倉廣 国立感染症研究所長  
猿田克年 国立感染症研究所 国際協力室長

研究要旨

平成10年の厚生省告示に定める厚生科学研究評価指針に基づき、また、他の研究事業の評価方法を参考にしつつ新興・再興感染症研究事業の評価を実施した。

A. 研究目的

新興・再興感染症研究事業は、国内外の新興・再興感染症研究を推進し、研究向上に資するとともに、新興・再興感染症から国民を守るために必要な施策を行うための研究成果を得ることを目的としていることから、「新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究」を実施することにより、新興・再興感染症研究事業の評価をより適切に実施し、新興・再興感染症研究をいっそう強化することが目的である。

B. 研究方法

平成13年度新興・再興感染症研究事業の事前評価委員会及び中間・事後評価委員会の運営を通じて、評価の質の向上を試みた。具体的には、事前評価委員会及び中間・事後評価委員会に用いる評価資料を評価しやすい・分かりやすい構成に改め、中間・事後評価委員会における学会形式の発表様式

をよりいっそう充実するなどの改善を試みた。その際、評価方法に関する文献、他の研究事業の評価方法に関する資料を収集・精査し、新興・再興感染症研究事業の事前・中間・事後評価委員会において適応できる事項については、全て反映できるよう改善し、評価の質を向上させるかについて検討した。

C. 研究結果

厚生科学研究の評価については、研究の分野を問わず、平成10年1月の厚生省告示第6号に定める「厚生科学研究に係る評価の実施方法に関する指針」に基づき実施されることとなっている。しかしながら、厚生科学研究の事業構成は社会学研究から基礎医学研究に至る非常に広い分野を網羅する研究事業であり、統一的な評価方法では適正に評価できない研究課題もありうると考えられる。一般に、研究を評価するには、まず、評価時期としては、研究の開

開始前、研究中、研究の終了後、以上の3つの時点があり、評価目的としては、研究課題の適否、倫理問題の有無、研究継続の可否、適正予算の算定などの項目があり、評価の対象としては、研究事業そのものの評価、課題決定の評価、研究班の評価、研究機関の評価、研究者の評価などがあり、これら多元的観点について、主観的・客観的に、また、科学的・行政的に評価することが必要となる。平成13年度の新興・再興感染症研究事業の評価にあたっては、こうした多元的観点から各研究班を評価できるよう、事前評価委員会及び中間・事後評価委員会に用いる評価資料を評価しやすい・分かりやすい構成に改め、中間・事後評価委員会における学会形式の発表様式をよりいっそう充実するなどの改善を試みたものである。結果として、事前評価委員会及び中間・事後評価委員会の一部の委員より、従来の評価方法より評価しやすい等の意見もあり、本年度の改善のうち評価を得たものについては、今後の評価委員会の開催においても継続して実施することとしたい。

#### D. 結論

事前評価委員会及び中間・事後評価委員会に用いる評価資料を評価しやすい・分かりやすい構成に改め、中間・事後評価委員会における学会形式の発表様式をよりいっそう充実するなどの改善を試みたことにより、平成13年度の新興・再興感染症研究事業の評価は従来に比しより評価しやすいものとなった。本年度の改善のうち評価を得たものについては、今後の評価委員会の開催においても継続して実施することとする。

#### E. 研究発表

1. 国際医療協力研究委託費の企画と評価に関する研究 猿田克年 平成12年度厚生労働省国際医療協力研究委託費研究報告書集425-426.
2. 感染症関連法規の考え方と近年の動向について 猿田克年 日本臨床微生物学会誌 11(4) 50-51.
3. A KANEKO, A IWAI, K SARUTA et. al. Molecular Epidemiology of a Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* Infection. Jpn. J. Infect. Dis. 2000; 53: 242.
4. 感染症新法 猿田克年 臨床医のための抗微生物薬化学療法. ライフ・サイエンス. (印刷中).
5. 国際医療協力研究委託費の企画と評価に関する研究 猿田克年 平成13年度国際医療協力研究委託費研究報告書 (印刷中).
6. 30余年にわたる国際医療協力猿田克年 国際協力プラザ 2001;87:7.
7. リボソームRNA遺伝子のPCR-RFLPパターンによるMRSA臨床分離株のタイピング 金子亜紀、猿田克年、藤野智子、切替照雄 日本細菌学会総会 2001年4月 岡山。
8. 感染症関連法規の考え方と近年の動向について 猿田克年 第13回日本臨床微生物学会総会 2002年1月 東京.